

ルノーと日産のアライアンス (提携)

ルノーと日産のアライアンス(提携)は、幅広い分野で戦略的に協力する独自のパートナーシップです。1999年の締結以来、日産はアライアンスを通じて展開地域をグローバルに広げ、経済規模においても大きく飛躍しました。2011年のルノー・日産アライアンスのグローバル販売台数は803万台*となり、世界市場シェアは10.7%になりました。ニッサン、インフィニティ、ルノー、ルノー・サムスン、ダチアというブランドを展開しています。

* 露アフトワズ社の「ラーダ」ブランドを含む

アライアンスのビジョン

締結当初は珍しい試みと思われたアライアンスですが、すぐに自動車業界における企業提携のモデルとなりました。その後、ドイツのダイムラーや中国の東風汽車公司、ロシアのアフトワズ社などとも幅広い協力関係を実現しています。そして現在、業界で最も持続的な効果を発揮しています。

アライアンスの基本的な考え方は、それぞれのブランド・アイデンティティや企業文化を尊重しつつ、株式の相互保有を通して互いの収益向上に積極的に貢献するというものです。現在ルノーは日産株の43.4%、日産はルノー株の15%を保有しています。相互に株式を保有することで互いを信頼・尊重し合い、透明性の高い組織のもとで迅速な実行、明確なアカウントビリティ、意欲的な水準の業績を目指しています。



ルノーとのアライアンスに関する詳しい情報は、下記のウェブサイトに記載しています。併せてご覧ください。

<http://www.nissan-global.com/JP/COMPANY/PROFILE/ALLIANCE/RENAULT01/index.html>

アライアンスの3つの目標

アライアンスは、利益ある成長戦略を策定・実行し、以下3つの目標達成を目指しています。

1. 各地域、各市場セグメントで、製品品質、魅力品質、販売・サービス品質の3分野において、ベスト3に入る自動車グループであるとお客さまから認識されること。
2. おのおの得意とする特定の領域で責任あるリーダーシップを発揮し、将来的に重要な技術で、世界のベスト3に入る自動車グループになること。
3. 高い営業利益率を維持し、常に成長することにより、両社の営業利益合計額が、世界の自動車グループ中で常に3位以内に入る企業グループになること。

また、ルノー・ニッサンパーチェシングオーガニゼーション(RNPO)などの共同購買組織や共同作業グループ、プラットフォーム・部品の共通化、生産設備の相互利用などを通じ、提携によるシナジーの創出に努めています。締結から13年目を迎えた今、アライアンスは持続可能なモビリティの領域でリーダーシップを発揮することにも注力しています。

ゼロ・エミッション領域のリーダーに

アライアンスはゼロ・エミッション車の第1弾となる電気自動車(EV)の開発を進めてきました。研究、技術、製品開発、製造に投じた金額は総額で約40億ユーロ。他社とは異なり、アライアンスが目指したのはEV専用プラットフォームをベースに、量産が可能で、主力購買層にとって価格が手ごろなEVを開発することでした。この取り組みが結実したのが、2010年12月より発売開始した「日産リーフ」です。2011年度の販売台数は2万3,000台、発売からの累計では3万台に達し、「日産リーフ」は世界最大の販売台数を誇る電気自動車となりました。また、ルノーからは「カンゲーZ.E.」「フルーエンスZ.E.」「トゥイジー」がすでに発売されています。アライアンス全体で2014年までに、計8車種のEVを投入する計画です。

アライアンスは、EV用バッテリーの生産にも取り組んでいます。日本は2010年より生産を開始しました。また、今後英国、米国、フランスでも生産し、アライアンスEVに搭載していきます。自動車メーカーとしてのノウハウを最大限に生かして開発したEV用バッテリーを高品質で量産することにより、EVの競争力を実現します。

日産とルノーの先進技術と広範なサプライチェーンを活用することで、アライアンスは世界の自動車産業において比類ない強みを持つこととなります。新市場において他社に先行することのメリットは計り知れません。EV開発の先駆

けとなることで、日産やルノーのブランド力、消費者認知度が高まるだけでなく、実際のマーケットデータを検証することもできます。両社は、2016年までに累計150万台のEV販売を目標として掲げ、自動車業界をリードしていきます。一方、燃料電池車や将来的なゼロ・エミッション戦略への取り組みも継続して進めていきます。

ダイムラーとの戦略的協力関係について

2010年4月にダイムラーと戦略的な協力関係を結んで以来、両グループの関係は徐々に強化されています。2012年後半には、エントリークラスの小型商用車の新型モデルが市場に投入される予定です。また「スマート」と「トゥインゴ」の車体構造を共同開発。2014年第1四半期初頭に市場に投入されます。「トゥインゴ」に搭載する3気筒の小型ガソリンエンジンをダイムラーの「スマート」向けに供給。4気筒のディーゼルエンジンを両グループ共同開発の小型商用車とメルセデス・ベンツの次世代プレミアム・コンパクトカー用に供給します。さらに、2014年から日産の米国テネシー州デカード工場で、メルセデス・ベンツとインフィニティ用の4気筒ガソリンエンジンの生産を開始。生産能力は年間25万基規模となる見込みです。

三菱自動車との協力関係について

2011年9月、日産は三菱自動車と日本におけるOEM相互供給の拡大について合意しました。両社は2010年12月に事業協力関係の拡大に合意していましたが、さらに日産から三菱自動車に対して上級セダン「フォーガ」の供給を2012年夏に開始し、三菱自動車から日産に対して2012年度中に軽商用電気自動車「ミニキャブ・ミーブ」の供給を開始します。このOEMプロジェクトは、日産から三菱自動車へのミニバン「NV200バネット」の供給に続くもので、日本市場における軽自動車事業にかかわる合併会社「株式会社NMKV」の設立とともに、両社の国内における事業競争力強化につながるものです。